

別紙様式1		令和6年度 幸崎小学校 学校評価表				(中間・最終)				三原市立幸崎小学校				校番(15)			
a 学校教育目標		「自ら伸びる とともに伸びる 子どもの育成」				b 経営理念 ミッション・ビジョン		【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 小中一貫教育で、15の春に【幸崎思考力】を発揮し自律的に学ぶ子どもを育成する学校。そして、保護者・地域に信頼される学校。									
評価計画						自己評価						改善方策		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g目標値	10月	2月	i達成度	j評価	k結果と課題の分析	n改善方策	l 評価		mコメント				
					h達成値	h達成値					イ	ロ					
確かな学力	○【幸崎思考力】を発揮し自律的に学ぶ子どもの育成【NRT偏差値平均 55以上】	教務・研究部	◎幸崎思考力を育む授業改善による、学力の向上 【学期末テスト学年平均85点以上】	【授業改善】 ①児童が自分の考えを発表できる親和性の高い学習集団づくり ②ファシリテーター力の向上に向けた教職員研修 ③学んだことを接続詞を用いて80字以内で書くR80の充実 ④STB(幸崎トレジャーBOX→獲得した知識)を掲示したり、自分に合った思考の仕方を選択できる学習環境	単元末テスト	平均得点率85%以上											
				【個別指導の充実】 ①全学級で支援が必要な児童に、複数対応による補充学習(支援が必要な児童には四則計算の徹底を重視) ②思考・判断・表現力向上に向けて、幸崎検定テストを実施 ③認知機能強化トレーニング(コグトレ)	児童アンケート	肯定的評価80%以上											
		○ICTの活用【プレゼン能力の向上・タイピング検定・情報モラル教育】	【ルールを守り活用できる児童】 ①育成すべき能力を発達段階に応じて具体的な子どもの姿で設定 ②タイピング練習で情報活用能力の基礎力の向上 ③情報モラル教育の充実	マイプレゼンの実施	年3回以上												
豊かな心	○親和性の高い集団づくり 【HyperQU・全児童学級生活満足群へ】	生徒指導・保健部	○目標に向けて、仲間と共に考動・協働できる子どもを育てる。 【HyperQU・全児童学級生活満足群へ】	【PDCAサイクルと振り返り】 ①学級チャレンジ……学級目標の設定と評価活動、学級チャレンジと行事を関連付け ③共感的な学び合いを実践し、認め合い感謝する仲間づくり ④特別支援の視点を経営に取り入れ、個に応じた指導を充実	HyperQU・学級生活満足群到達度	HyperQU・学級生活満足群到達度80%以上											
			◎縦割り班・異学年を軸とした自治的な学び【自己評価…児童】	【縦割り班・異学年活動】 ①幸崎っ子10の姿の共有化 ②幸崎スポーツフェスティバル・幸崎文化フェスティバル ③児童会や委員会、縦割り班等の自治活動の充実(縦割り班)縦割り班遠足・清掃(児童会)がんばったね会(年2回)(委員会)割りフェスの実施	児童アンケート	児童の肯定的評価80%以上											
健やかな体	○運動に対する意欲の向上 【個人記録の結果が全員UPする】	生徒指導・保健部	○楽しみながら体を動かすことで体力を向上させる。 【個人記録の結果が90%UP】	【運動に対する児童の意欲向上】 ①縦割り班を生かしたスポーツフェスティバルやリレーの実施 ②外遊びWEEK等の取組 ③視覚的に自分の目標やゴールが見えるカードの作成と評価	個人記録の結果	個別の向上率90%以上											
	○コミュニケーションスクール・小中一貫による教育活動の充実を図り、郷土を愛する心を養う。 【コミュニティスクール】 【小中一貫教育】	教務・研究部	○幸崎の強みを生かした探究的な学習を展開し、自分や友達、郷土を愛する心を養う。 【自己評価…児童】 【アンケート評価…保護者】	【創立150周年に向けてコミュニティスクールを活用し教育力向上】 ①学校の教育活動を、地域と共に企画・実行することで、地域の方や地域の事に関わる機会(150周年フェスの成功) ②地域への感謝の気持ちを視覚化・伝えることの大切さを実感 ③総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメント(地域資源のよりよい活用方法・地域学習の充実)	児童アンケート	自分や友達、学校や地域に対する愛着に関するアンケート項目の肯定的評価80%以上											
	○チーム幸崎として、業務改善を図る。 【時間外勤務時間目標総時数 達成率100%】	総務部	○在校時間を短縮する。 【時間外勤務時間目標総時数達成率100%(平均値45時間)】	【適材適所の人材配置による業務改善】 ①個性を発揮できる職務に就くことで、一人一人のモチベーションを高め、業務を効率化 ②建設的な雰囲気醸成しチーム力の向上 ③一人一人が生き生きと働くことができる組織へとさらに成長	時間外勤務時間数	年間平均45時間以内の職員100%											
本年度の重点目標については◎印で示す。						PA-SENNTTO						【l:学校関係者評価 評価】 イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。 ハ:分からない。					